静岡文化芸術大学図書館・情報センターだより

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2004.9

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター 〒430-8533 浜松市野口町1794-1 TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125 http://www.suac.ac.jp/japanese/080_lib/index.html

Contents:

表紙

「聖ベネディクト、聖マウルス、 聖スコラスティカの祝祭の ための読誦集」―

チェスタトンを読む楽しみ−❷ 図書館・情報センター長 扇田 昭彦

図書館散歩

私の本棚のスタート 「時間·空間·建築」

デザイン学部長 渡邊 章亙

シリーズ 図書館・情報センターを使いこなそう! Magazineplus 編 (マガジンプラス)

知っていますか?こんなサービス --



「聖ベネディクト、聖マウルス、聖スコラスティカの祝祭の ための読誦集」 岩波書店、1983, c1981 ファクシミリ版

西欧の 修道生活の父 といわれる聖ベネディクト、その妹の聖スコラスティカ、 そして愛弟子の聖マウルスの祝日前夜に、聖歌隊の朗誦のために用いられたラ テン語典礼書である。通称「ベネディクトゥス稿本」。西洋史学、宗教学、美術史 学上貴重なものであり、中世書物芸術の傑作である。

原本は11世紀にモンテカッシ - のベネディクト大修道院で作成された。絵入り。 ヴァティカン図書館のファクシミリによる精巧な複製。



図書館・情報センター長 **扇田 昭彦** Senda Akihiko

文中に登場した図書

G·K·チェス外ン(中村保男訳) ブラウン神父の童心 933.7/C39/1

G·K·チェス外ン(中村保男訳) ブラウン神父の知恵 933.7/C39/2

G·K·チェス外ン(中村保男訳) ブラウン神父の不信 933.7/C39/3

G·K·チェス外ン(中村保男訳) ブラウン神父の秘密 933.7/C39/4

G·K·チェスタトン(中村保男訳) ブラウン神父の醜聞 933.7/C39/5

G·K·チェス外ン(吉田健一訳) 木曜の男 933.7/C39

G·K·チェスタトン(安西徹雄ほか訳) 正統とは何か 938/C39/1

G·K·チェスタトン(安西徹雄ほか訳) チェスタトン著作集 938/C39/1-5、7-9

チェスタトンを読む楽しみ

最近はインターネットを利用することで新刊書に触れず、図書館の書棚にも足を運ばない若い 世代が増えているという。

確かにインターネットは便利で、私も原稿を書く際、データ収集のためによく利用する。だが、インターネットが提供してくれるのは基本的に「情報」である。「情報」を超えて「作品」そのものに出会おうとすれば、本(書物)は今も有効な手だてである。図書館の書棚の間をゆっくりと散策し、まだ読んだことのない著者の本を開く楽しみには格別のものがある。

ここでは私が好きな作家の話をしたい。英国の作家・評論家のG・K・チェスタトンのことである。 20世紀前半に雑誌ジャーナリズムで活躍したチェスタトン(1874~1936)は、奇抜な逆説を 駆使する快活な喜劇的精神で読者を驚かせ、楽しませる小説と評論の書き手だった。

彼は多面的な著作家で、何と言ってもその名を高めたのは、ブラウン神父を主人公(探偵)とする短編推理小説のシリーズである。『ブラウン神父の童心』など5冊の邦訳が創元推理文庫から出ている。

ブラウン神父ものもいいが、私が一番好きなのは、彼の長編推理小説『木曜の男』(創元推理文庫)だ。三十年以上前から、吉田健一独自の訳文が楽しめるこの小説を、もう何度読み返してきたか分からない。

ヨーロッパ各地で数々のテロを実行する無政府主義者の秘密結社を探ろうと、主人公が結社の心臓部に単身乗り込む、というのが発端だ。だが、物語は悪夢のような超現実的展開を遂げ、やがて途方もない形而上的世界にたどりつく。

チェスタトンにはカトリックの思想家という一面もあり、その面を代表するのが名著『正統とは何か』(春秋社)である。以前は春秋社の『G・K・チェスタトン著作集』第一期(全10巻)の第一巻がこの本だったが、10年ほど前、同社から単行本の新装版(安西徹雄訳)も出た。

私はキリスト教徒でもカトリックでもないが、この本を読み返すたびに、心の中の風通しがぐんとよくなるのを感じる。 逆説に見えて真実を射抜く言葉が多いのだ。 例えば 。

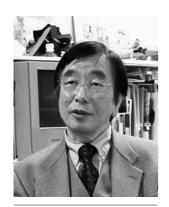
「想像は狂気を生みはしない。狂気を生むのは実は理性なのである」

「砲丸も地球も丸いことでは甲乙ないが、だからといって砲丸は砲丸で地球とはちがう。 偏狭な普遍性と言うものもある。 窮屈な永遠というものもありうるのだ」

若い世代に、『木曜の男』あたりをきっかけに、チェスタトンの魔術的世界にぜひ触れてほしい と思う。

(せんだ・あきひこ = 本学文化政策学部教授、図書館・情報センター長)





デザイン学部長 渡邊 章亙

文中に登場した図書

S・ギーディオン(太田実訳) 空間・時間・建築 1・2巻 520.4/G42/1·2

森杲(もり・たかし) アメリカ職人の仕事史: マス・プロダクションへの軌跡 081/C64/1328

私の本棚のスタート「時間・空間・建築」

大学進学で上京したとき、田舎から組み立て式の本棚を持っていった。 巾60cm、高さ90cm くらいの木製4段式の小さなものであった。その時はまだ建築の専門書は所持していなく、本棚 の中は隙間だらけの状態であった。その本棚の中に入った最初の専門書が「空間・時間・建築」 (S・ギーディオン著 太田實訳 丸善)であった。

まず、大学に入って建築学の世界で教えられた事は、学習しなければならない広範囲な知識 の必要性と専門性であった。そうした中での最初に手にした専門書がこの「空間・時間・建築」 であったが、内容は翻訳と言う事もあり当時の自分にとっては読みつづけるには相当根気の要る 本であった。ギーディオンが何を語ろうとしていたかを理解するよりは、建築の世界の幅ひろさを 教えられた。おかげで科学技術だけでなく土木技術から都市、絵画、彫刻にまで関心を広げる動 機付けが得られた。この本は、自分にとっては近代の歴史を理解する上で重要な意味を持ち、特 にアメリカ文化の啓発を中心とした戦後教育の中で育った自分にとって、 章の「アメリカ発展」 は大きな影響を与えた。

影響を与えられたという事は、実は後日分かった事で、学生時代に読んでいた事をすっかり忘 れていたといった方が良い。住宅業界の中で働くうちにアメリカに何度となく出張し、実感した事 はアメリカの住生活の豊かさであった。このことは専門家でなくても誰しもが感じる事であったが、 その今日の豊かな住生活の姿に到達する歴史を調べようとしてこの本に再会したといってよい。

改めて読んでみて、人間社会を発展させる科学技術の役割や進歩のプロセスが、アメリカ大 陸という舞台の上でどのようになされたのかを、実感もって理解する事が出来た。1620年、新教 徒がプリムスに上陸した時からアメリカ人の住生活の歴史が始まった。当時はヨーロッパから持 ち込んだ道具を用いて、新天地アメリカで手に入る材料を使って貧しい住宅を建てていた。そう したアメリカ人が独自の住宅を作り始めたのは19世紀中頃からの西部開拓当時からであり、そこ には建築工法(バルーンフレーム工法)の発明(1832)があり、アメリカ独自の道具の姿が生ま れ、アメリカ大陸での産業革命の嵐が吹き始める頃であった。

その後、この「空間・時間・建築」を補完するような本が周辺に集まった。そうして集まった本 の中で自分の仕事に大いに役に立った本が「アメリカ職人の仕事史:マスプロダクションへの 軌跡」(森杲 中公新書)であった。アメリカが何でも世界で一番になる歴史がわかりやすくか かれた本で、モノつくりに関わる人には推薦したい図書である。筆者はアメリカ経済学を専門とす る先生であるが、モノつくりの観点で分かりやすくかつ図を数多く取り入れ、通説となっていること の間違いなども正している膨大な資料を基にした文庫本である。

この本の序文タイトルに、アメリカ人の職人気質を「自分の仕事を習ったと同じようにはやらな い」と述べている。実は、この言葉をこの浜松でも聞くこととなった。昨年、遠州地方の織物に関 する調査時、土地の人からこの地方の人は同じ織物機械を使っても、各自自分で改造して他人 と同じようなことはしてこなかったという話を聞いたとき、この本を思い出した。 モノつくりの盛ん な土地に共通する職人気質の一側面なのかと思った。また、アメリカが発展する要因として「木 の文化」、いわゆる木工の技術がアメリカの技術発展の元になっていたことなどを知るに及んで、 益々この遠州地方に興った木工技術をベースとした繊維産業発展とその後の産業の発展との 共通性を思った。

S・ギーディオンの「空間・時間・建築」は、私の本棚の最初の建築専門書であったが、今では 建築の本よりアメリカの歴史や文化に関する本が多くなってきた。

(わたなべ・あきのぶ=デザイン学部長、空間造形学科教授)

〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう!

Magazineplus 編 (マガジンプラス)

Magazineplus:雑誌記事索引オンラインデータベースの簡単な使い方をご紹介します。

Magazineplus は雑誌記事を探す際に大変有用なソールです。また、文献複写を依頼する場合も大変便利なので、 学生の皆さん!積極的に使っていきましょう!(3 アクセスまで。)

" Magazineplus "とは?

672万件の雑誌記事情報に加え、戦後国内の学術雑誌が刊行した人文社会系の年次研 究報告や学術論文集8,000冊、47万件の論文タイトル情報を加えた、総計719万件にのぼる 国内最大の雑誌・論文情報データベースです。

学内向けHPから"雑誌記事検索オ ンラインデータベース "をクリックし ます。

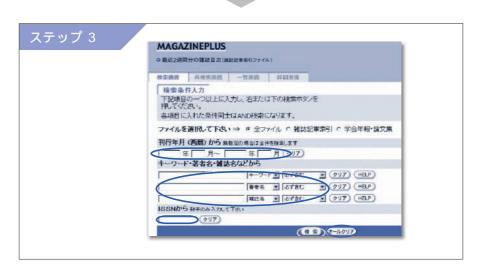


" Magazineplus "をクリックします。



検索したいキーワードや、著者名、 雑誌名、ISSNを入力して"検索" をクリックします。(「必ず含む」 AND検索・「含まない」NOT検索・ 「いずれかを含む」OR検索も可能

また、刊行年月の範囲指定を行 い検索結果を絞り込むこともでき ます。)

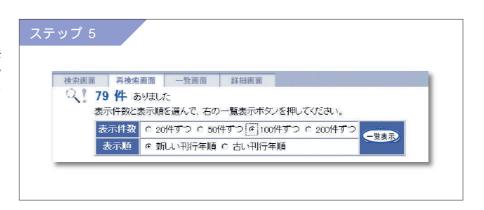


〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう!

ここでは例としてキーワードに"静岡 文化芸術大学"、刊行年月を"2000 年 "と入力し、検索ボタンをクリック します。



79件がヒットしました。表示件数を 選択して、"一覧表示"をクリックし ます。また、必要に応じて表示件数 もクリックします。



ここでは例としてキーワードに"静岡 文化芸術大学 "、刊行年月を"2000 年 "と入力し、検索ボタンをクリック します。



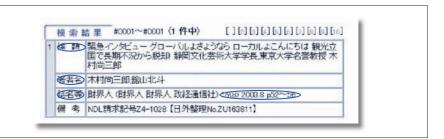
検索結果が表示されます

次ページに続く

〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう!

検索結果

検索結果から記事の詳細な情報が 分かります。"標題""著者名""誌 名 "" 巻号 "" 掲載頁 "" 出版年 " 等の情報は文献複写を依頼する際 に必要となってくるので、メモを取っ てください。



本学に無い書籍の場合は



カウンターで他の機関に複写の依頼を申し込んでください。 (記入例を参考にして必要事項を漏れなく記載してください。) なお、文献複写には複写代・送料等の費用が発生します。依頼館に迷惑 をかけないよう、支払は速やかに行ってください。(詳しくはカウンターまで)



知っていますか?こんなサービス

図書館に読みたい本がない!

こんな本を置いて欲しい!



論文を書くのに必要だけど 高価な本だし・・。



そんな時はカウンターで「購入希望 図書申込書」を提出してください。で きるだけ希望に添って本を購入します。 通常受け付けてから2~3 週間くらい かかります。余裕を持って申し込んで ください。雑誌は除く。

早期に受付を終了することがあり ます。

本の詳細な情報がわからない時はカウンターに相談してください。

